

令和7年度 小樽市立塩谷小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

- ① 昨年度の改善プランでは、国語科では、チャレンジテストと確認テストの結果において、1～3年生が目標を達成することができた。算数科では、4年生のみ目標を達成することができた。
- ② 全国学力・学習状況調査の国語科では、「我が国の言語文化に関する事項」について課題が見られ、同調査の算数科では、「データの活用」について課題が見られた。標準学力調査の国語科では、「漢字を読むこと」について、同調査の算数科では「変わり方」について課題が見られた。
- ③ 全国学力・学習状況調査児童質問調査結果では、ゲーム等の時間が長い児童が多く、毎日家庭学習に取り組んでいるが、全国と比べ家庭学習時間が短い。
- ④ 生活リズムチェックシートや児童アンケート結果から、ほとんどの児童が毎日宿題等の家庭学習に取り組んでいるが、家庭学習に取り組む時間については、個人差が大きい。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される平仮名、片仮名、漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。
2年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を90%にする。
3年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を90%にする。
4年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を90%にする。
5年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。
6年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される漢字の読み書きの問題の正答率を80%にする。

<算数科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
2年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
3年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
4年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
5年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。
6年	・チャレンジテスト、「確認テスト」に出題される四則計算の問題の正答率を80%にする。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（85%）
2年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（85%）
3年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（80%）
4年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（80%）
5年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（75%）
6年	・学年×10分+10分の家庭学習ができる。（75%）

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 漢字・計算問題の繰り返し指導
- ② 放課後及び長期休業中の補充学習の実施
- ③ 家庭学習の継続的な取組

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① ユニバーサルデザインの視点を生かした焦点化・共有化による構造的な授業づくり
- ② 一人一台端末を効果的に活用した、「子ども」を主語にした授業づくり

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① 「家庭学習の手引き」及び家庭学習カード等の活用
- ② 宿題（1～2年）、宿題・自学ノート（3～6年）の活用・工夫
- ③ 「おたるスマート7」の啓発と情報モラル教室の実施

4 実施計画

年月日	計画内容
R7年	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施
4月	・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ○R7全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月	・全国学力・学習状況調査自己採点結果の分析による課題の明確化と共有 ○標準学力調査結果分析
6月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施
7月	・児童・保護者アンケート、職員自己評価の実施・分析 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・夏季休業中の学習会の実施
8月	・学習及び生活習慣改善に向けた保護者への啓発 ○R7全国学力・学習状況調査結果分析
9月	・全国学力・学習状況調査結果による課題の明確化と共有、改善策の実施
10月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月	・公開研究会の実施
12月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・児童・保護者アンケート、職員自己評価の実施・分析 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・冬季休業中の学習会の実施
R8年	・学習及び生活習慣改善に向けた保護者への啓発
1月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
2月	・学力向上改善プランの検証
3月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① チャレンジテスト、学力向上検討委員会「確認テスト」結果
- ② 教職員自己評価
- ③ 児童・保護者アンケート、職員自己評価結果

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① 児童・保護者アンケート、職員自己評価結果
- ② 校内研修等での授業改善の検証、職員自己評価結果

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① 児童・保護者アンケート、職員自己評価結果
- ② 児童・保護者アンケート、職員自己評価結果
- ③ 児童・保護者アンケート